

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100109		
法人名	有限会社オオキタ・コーポレーション		
事業所名	グループホーム 夢楽園		
所在地	岡山市南区福島3丁目5-15		
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 30 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=3390100109-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 25 年 10 月 8 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を目標に、明るく家庭的な雰囲気の中で、みんなの個性や長所が自然と表現できる環境づくりを大切にしています。入居者様もスタッフも心から「ありがとう」と言い合える関係であり、いつも笑顔で温かいホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地の中に位置し、広々とした庭には木々や季節の花が植えられている。時には近所の子どもたちの遊び場にもなっているとも伺った。リビングは日当たり、風通し共に良く、家庭的な雰囲気でも利用者も日中のほとんどをリビングでゆったりと過ごしている。開設7年目であり、地域との関係も親密なものとなっている。地元の幼稚園の慰問や小学校の行事への参加など地元の子ども達との交流や町内会長を中心として災害時には協力体制の申し出もある。1階、2階と2つのユニットがあるが、職員はユニットに関係なく連携を図り、日々の利用者の状況や様子を把握するよう努めている。職員の関係も良く、垣根のない連携の取れた支援を行うことで、利用者が安心して生活することが出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を普段の関わりの中で実現できているか振り返りができるように、スタッフルームと玄関に掲げ自己認識してチームで共有している。	理念をタイムカード前に掲示し、職員の意識づけを図っている。また、カンファレンスで再確認する機会もある。利用者職員という関係だけでなく、なじみの関係を築き、利用者がその人らしく暮らしていけるように、職員同士が思いを共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園や小学校の行事を慰問交流している。日常的に散歩、買い物に出かけ挨拶を交わしたり、立ち話をして顔なじみの関係ができている。	事業所で行われるお祭りには地域の方が多く参加している。また、地元の幼稚園の慰問、小学校の行事への招待、中学校の職場体験の受け入れなど行っている。地域のボランティアの訪問や協力もあり、利用者の楽しみにもなっている。災害時の協力体制もしっかりとしたものになっており、地域の力で守られている事業所になっている。	開設7年目であり、地域との関係が非常にしっかりしたものになっています。子ども達との交流やボランティアの方たちのバックアップ体制も、職員の地道な努力の結果だと考えます。今後も良い関係が継続していくこと期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー2級実習の受け入れ、人材育成に努めている。その際には、利用者さんの不安や混乱に繋がらないように、職員が間に入ったり、またプライバシーにも配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でも外部評価のみでなく、避難訓練で、地域の方からいただいたアドバイスに対する取り組みをしている。	統括町内会長、副会長、民生委員、地域包括センター、社会福祉協議会、家族会等が参加し、2ヶ月に1回開催されている。会議開催に合わせて避難訓練(夜間想定)を実施し、地域の方からアドバイスをもらったり、協力関係の確認にもつながっている。日程の関係で家族の参加は少ない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査時や生活保護受給者の定期訪問時には、日頃の暮らしぶりを具体的に伝えられる良い機会になっている。	事業所の統括マネージャーやホーム長が中心となり、市の担当者や不明なことなど連絡し、尋ねている。ときには窓口に出向くこともある。生活保護を受給している利用者もあり、社会福祉事務所の担当者の訪問もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	16時には玄関の施錠をするが、日中はオープンした状態で、安全を確保している。また、身体拘束に廃止ガイドラインに沿って、研修やカンファレンスでの取り組みをしている。	16時までは玄関の施錠はしていない。ドアチャイムを設置し、日中は自由に出入りできるようにしている。今は身体拘束の対象者はいないが、やむを得ず必要となった場合の同意書なども作成、ガイドラインに添っての見直し体制もできている。内部研修の機会もあり、職員は身体拘束ゼロという意識を持ち、支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで具体的な実例や防止策について検討して、職員の意識の向上につながるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などで、制度について学びの機会を得たり、対象となりそうなケースでは専門家より、アドバイスをもらいながら、支援に結びつけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧に説明するように心がけている。リスク面や重度化、看取りへの対応についても同意を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんやご家族の思いを遠慮なく、相談して頂けるような雰囲気づくりを心がけて提案されたご意見はカンファレンスなどで、話し合い反映させている。	意見箱は設置しているが、今は利用はない。家族の面会時に希望や要望や聞いたり、利用者の事業所での様子を職員が細かく報告している。なかなか会えない家族には電話で報告をしている。家族からは散歩や買い物に連れて行って欲しいとの要望があり、支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から挨拶や世間話を大切にしている。月に1度のカンファレンスで全体の情報や意見を得る機会を作り、雰囲気の良い職場環境に努めている。	職員同士のコミュニケーションを活発にしている。利用者のケアについて出た意見は、カンファレンスで随時話し合っている。また、行事についての提案もある。課題となった事柄について月1回、本社会議で話し合い、運営に反映されている。	2ユニットの事業所であるが、職員間の関係が良好で、ユニットの垣根のない支援を実施しています。職員が利用者全員の状況を把握しており、利用者も誰にでも要望が言えるなど安心感を持つことができています。今後もこの良い雰囲気を継続されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の過労やストレスが集中しないように、気を配り良好な人間関係を保ち、お互いに遠慮することなく、声をかけあって協力している。また、長所を発揮できて、向上心を持てるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験の応じて、スキルアップ向上のため、事業所内外の研修を提供して、受講を勧めている。研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの訪問や交流があり、お互いの現状や情報交換を交わして、自ホームの振り返り、見直しに繋げてサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の心身の状態や思いに向かい合い何度か遊びに来て頂きながら、不安や思いを理解しながら、安心して受け入れて頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや不安なことなど、ご家族が求めているものを理解し、声に耳を傾けながら、安心感を得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、状況等を確認して、改善に向けた支援の提案や相談をしていく中で、信頼関係を築けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に喜怒哀楽を共感して、感謝の気持ちや励ましあったり、共に支えあえる関係づくりを心掛けている。また人生の大先輩である入居者さんに、生活の知恵や物も考え方を教えて頂くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有して、ご本人を支えるために、ご家族の方と同じ思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人、親戚の方に気兼ねなく訪問して頂いたり、手紙や電話での連絡を取り持つ等、継続的な交流ができるよう努めている。	友人や知人の訪問もあり、電話を掛けたり、手紙を書く利用者もいる。書いた手紙をポストに入れるのを楽しみにしている方もおられる。以前は行きつけの場所へ散髪に行く利用者もいたが、今は訪問理美容のサービスを利用している。お墓参りや一時帰宅、外食など家族の協力のもと実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごせる時間や、気の合うもの同士で、過ごせれる関係づくりに配慮している。心身の状態や気分、日々の変化に注意して、孤独感のない共に楽しめるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要となられた場合でも、移り住む先の関係者の方に、これまでの暮らしぶりや支援や状況等の情報提供して、環境や暮らし方の継続等に配慮してもらえるよう連携を図れるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりの思いや希望、意向の把握、日々の行動や表情から汲み取ることに努めて、意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者の方より、助言や情報をいただきながら、ご本人本位に検討している。	担当の職員が中心となり、利用者の思いや希望を把握している。本人の生活歴なども考慮し、利用者の希望や思いをくみ取り、カンファレンスで検討し、支援に活かしている。意思疎通が困難な利用者に対して、家族から話を聞いたり、担当職員が寄り添い、気持ちをくみ取る等努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、ご本人やご家族の方と、なじみの関係を築きながら、自分らしく安心して、生活して頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの暮らし方や生活リズムを把握して、その方の有する力を見極め、できないことより、できることに注視して、自信に繋がるような支援に心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その方の視点にたつて、その人らしく暮らして頂くために、ご本人様やご家族の方の思いや、意見を組み取り、課題やケアのあり方、気づきや要望をカンファレンスで話し合い、その都度介護計画を作成している。	介護計画書の作成は、主に計画作成担当者が行っている。利用者の様子を細かく書いた記録を参考にカンファレンスで意見を出し合い、見直しをしている。本人や家族の希望を聞き、反映するよう心掛けている。医療面では医師に相談している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意して、食事、水分量、排泄等身体的状況や、日々の暮らしのご様子やご本人の言動など記載して、気づきや状態変化を把握して、情報共有行いながら、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や状況に応じて、医療機関への受診、通院、送迎の必要な支援は、柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心した地域生活を継続できるように、地域資源との連携、協働して、安全な暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。必要に応じて受診の付き添いをして、普段のご様子や変化を伝えるようにしている。協力医療機関とも、いつでも連絡、相談をさせて頂きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医に受診することができる。ほとんどの利用者が協力医療機関の医師による2週間に1回の往診により、健康管理を行っている。緊急時など24時間体制で連絡することができる。他科に受診が必要な利用者は看護師が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、健康管理や状態変化の相談、助言、対応を行っている。日頃の気づきを介護職から看護職へ正確に伝えて、連携することで早期発見を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供して、またご家族とも回復状況等の情報交換を行いながら、早期退院して帰園できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族との意向を踏まえて、医師、職員が連携をとりながら、安心して納得して最期を迎えられるように取り組んでいる。また職員全員が方針を理解できるように、カンファレンス等で話し合いを行っている。	利用開始時に重度化した場合や看取り支援について説明を行っている。利用者や家族より自然な看取りの希望があれば実施している。医療処置が必要な場合など家族と話し合い、意思を尊重し、納得できる対応をしている。職員は情報を共有し、チームワークで支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職等の指導のもと、実際の場面で慌てず、確実かつ適切な行動がとれるように、勉強会で実施している。緊急時マニュアルを整備して、全職員が周知できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方のご指導のもと、マニュアルを作成して、地域の方にもご協力を経て、ご利用者さんと共に避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方など訓練を定期的に行っている。	年2回、実施している。2回とも夜間想定での実施に加え、地震の訓練も実施している。2階からは滑り台を使っての避難誘導も実施している。また、町内の関係者に参加してもらい、アドバイスや意見をもらい、改善を図っている。水害の場合は2階へ避難するなど検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の気持ちや考えを大切にして、さりげないケアを心がけプライバシーに配慮している。個人情報等の守秘義務についても十分に理解して、責任ある取り扱いと、管理を徹底している。	利用者を尊重する気持ちを持ちながらも、親しみのある声かけを心がけている。トイレ誘導の声かけも配慮している。入浴介助も希望があれば同性介助を実施している。接遇マナーの内部研修も実施し、場合によっては管理者から厳しく注意する場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者さんに合わせた声かけ、問いかけを行って、言葉だけではなく、表情からもキャッチできるように、日頃から寄り添えるようにしている。また話しやすい雰囲気作りを大切にして、自己決定を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れるスケジュールはあるが、お一人おひとりのペースを尊重して、その日の状態に合わせた生活を送って頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服選びはご本人の意思を尊重して、見守りや支援が必要な時には、手伝わせて頂いているが、困難な方にも職員の支援より、ご本人の気持ちに沿ったものを選択して頂いている。出張散髪では、カット、パーマ、毛染め等その方らしさを保てるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には、みなさんのお好みメニューを取り入れながら、旬の食材等を食卓に囲み、職員と共に楽しく、食事ができるような雰囲気づくりを大切にしている。	利用者の身体的な機能の低下によって、食事の準備の手伝いができなくなっている。食事は業者から配達された材料を使い、職員が手作りし提供している。月に1回はお寿司の日があり、利用者も楽しみにしている。手作りおやつも企画している。外食は家族での対応になっている。	職員手作りの食事は一番だと思いますが、たまには変化を付けてみてはいかがでしょうか。お弁当を作って庭やウッドデッキで食べたり、パンやファーストフード、出前など利用したりすることで、気分転換や食事の楽しみが増えると思います。検討を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの食事、水分量を把握して、個々に合った食事形態で、お出しする事により、食する楽しみや喜びなど、おいしく摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた方法で口腔ケアの誘導をさせて頂き、声かけ、見守りを行い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンやサインの見極め心理面への配慮を十分に行いながら、身体機能をしっかり把握して、安楽な排泄ができるように支援を行っている。	排泄チェック表を利用し、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を実施している。できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。声のかけ方やプライバシーにも配慮している。退院後、機能低下が見られた利用者が職員の適切な支援で布パンツ使用まで改善した事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をこまめに促したり、果物、野菜等のメニューを取り入れ、体を動かす運動、リハビリ体操を働きかけたり、蒸しタオルなどで腹部を温めたりと自然排便ができるように配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の健康状態を把握して、プライバシーや快適性に配慮しながら、お一人おひとりのご希望に沿った入浴方法を取り入れ、安心、安全に入浴できるように支援している。	基本的に週2回、マンツーマンにて入浴を支援している。季節によってゆず湯にしたり、入浴剤も使っている。夜間入浴は希望が無いので今のところ、実施していない。失禁などにより、汚染があった場合は随時シャワー浴を実施し、快適に過ごせるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間の生活リズムを整えて、その方の睡眠パターンを把握して、寝つけないときは、温かい飲み物をお出ししたり、おしゃべりや、マッサージなど身体的、精神的にリラックスして頂き、心地よく眠りにつけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用の説明を個人ファイルに保管して、いつでも職員が確認できるようにして、薬の変更や状態変化が見られる時は、詳細な記録をとり、医師や看護師に報告、相談して、連携を図るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意分野で力を発揮して頂けるように、役割を作り手伝って頂いた時には、感謝の言葉を伝えるようにしている。外出や地域の行事参加等で楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方に合わせた移動方法で、園外散歩したり、ドライブやご家族の方や地域の方にもご協力して頂きながら、季節行事等に参加して頂けるように支援している。	季節の外出行事にはできるだけ家族も招待している。本人の希望に添ってドライブや買い物など外出する場合もあるが、外出先でのトイレ利用など課題もあり、あまり外出の支援が実施できていない。	外出について職員の人員配置、利用者の身体機能の低下など様々な原因で支援ができていく状況となっており、地域との関係が非常に良好なため、訪問してくれているボランティアの方や地域の方に力を貸してもらえようお願ひしてはどうか。少人数での外出から始めるなど検討を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族のご協力のもと、少額のお金を持たれている方もおられ、買い物後に出納帳に記入や残金合わせ等、一緒に行くことにより、社会性の維持につなげている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話や、手紙のやりとりをされている方もおられ、年賀状を出して頂く支援も行っている。電話を取り次ぐ際は、気兼ねなくお話できるように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員や外来者の気づきを常に活かしながら、居心地良く家庭的な雰囲気中で、安心して過ごして頂ける生活空間の保持に努めている。	玄関や庭には木々や季節の花などなど植えられている。リビングの窓からウッドデッキが繋がっており、広く開放感があり、日当たり、風通し共に良く、利用者がゆったりと過ごすことが出来る空間になっている。リビングやトイレも床暖房を設置するなど利用者にとって快適な温度設定をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、椅子を配置して、仲の良いご利用者さん同士や、気分によって1人でつるげるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物や思い出の写真等を持ち込んで頂き、安心して過ごして頂けるようにご家族の方にもご協力を頂き、温かな居心地のよい居室がつけれるように配慮している。	家族の写真や趣味のもの、作品などが飾られ、その人らしい部屋作りに配慮している。衣類の管理は家族にお願いしており、季節毎に入れ替えをしてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に合わせた環境整備に努めて、職員同士が共有し合い、自立支援につなげて行けるようにしている。		